

## 北海道公民教育学会 令和4年度設立総会

### 提言要旨（一部抜粋）

#### 1. テーマ「新しい公共社会と「市助」の可能性」

発表者：北海商科大学准教授 見附陽介 先生

- ・北海商科大での教育研究活動についての紹介
- ・課題としての公共 → 公共＝普遍性 から 公共＝多様性の時代へ  
→ 「新しい公共社会」をめぐる研究課題が求められるのでは  
→ 超高齢社会への対応としての「市助」＝福祉の市場化 市場の活動がもたらす福祉 新しい領域の開発  
すなわち、市助≡新自由主義
- ・市場は資本主義の占有物ではない  
→ 市場の資本主義からの解放 市場では各人が利益を追求、全体として市場の成長へつながる  
→ 社会主義や計画経済では、多様性という観点、効率性、再分配という面では限界にきている
- ・市場の原理を捨てるのはもったいない→市助へ
- ・商品の対象者以外の逸脱者に対し、市場は責任主体として携わるべきである
- ・私的利益を追求することを否定すべきではない→市場の活動によって福祉の実現＝市助の可能性

（質疑応答）民営化と市助の違いとは？

- ・実際の場面を念頭に→利益のみの追究はあり得ないだろう 私的利益の追求と公共的利益の追求を考える必要がある。それは、市場原理を資本主義のみによって運営される市場ではない。ただし、現在の民営化や新自由主義そのものを否定するつもりではない

#### 2. テーマ「北海道における公民科教育の取り組み状況」

発表者：北海道教育庁高校教育課高校教育指導係長 岩淵啓介 先生

- ・公民科「公共」の中で単元を貫く問をどう設定していくか
- ・学習改善につながる評価をどう設定していくか
- ・主体的に学習に取り組む姿勢はどう評価すべきか
- ・教務内規をどう設定していくか  
このような研修会を開催し、「公共」の方向性を探ってきた。

事例として、2－（2）租税に関する学習

- ・租税教室の次の時間に、探求する学習では、問を立て、累進課税について長所、短所などについて議論し、ワークシートを使って実践的に学ぶと、税を払うことへの意義が分かったという感想が得られ

た→当事者として考えていくことの大切さ

「公共」では科目構造を理解する必要がある→単元の指導と評価、生徒の実態、地域の実態の把握が必要になる

・10月～11月に授業改善セミナーを開催

道教委のセミナーの中でも参加者の評価が高い→実践を持ち寄って、情報交換、刺激を受けることができる。昨年は30名を超える参加者 先生方の意識も高まっている印象を受けている

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の捉え方

なかなかピンと来ないというご意見を受けている。

→車で例えるなら、車が走るために、タイヤが必要（1本では無理）。エンジン（人間性）も必要  
ハンドル（学習に対する調整）、ギア（取り組む側面）も必要である。

・重要なのは先にゴール（目標）を示す→そのうえで何が必要かを子供たちに書かせる→振り返らせる  
→そのため、先生方の教育計画が必要

・今後は、「手引き」に探求の記述を充実させ、堂徳会長にも携わっていただいている主権者教育をメインにした教育実践（登別の実践例）の啓発を行うなど、一層の改善・充実を図りたい。

（質疑応答）

観点別評価が定着しない理由は？

・先生自身が必要だと思えることが前提になるが、入試改革との連動もあり、今後の進展が期待される一番は、子供に力を身につけさせるためにどんな評価が必要か、テストに向けた一夜漬けとか、知識理解に偏った評価になっていないか、本質的に力になっているのかを問うことが重要ではないか。

### 3. テーマ「新教育課程移行期における課題と解決の糸口を考える～「現代社会」の総括と「公共」を創る」 発表者：北海商科大学教授 堂徳将人 先生

・公共を成功させるためには、現代社会の総括が必要である

（先生方に対しての質問）公共はどの範囲を授業しているか？

（挙手による回答）大項目Aの内容をやっている大多数、そもそも「公共」は来年度から実施する学校が過半数→（先生方への問いかけ）それでよいのだろうか？

・カリキュラム改革における「現代社会」の経緯は人間中心を基本とする。スプートニクショック→系統主義→大量の落ちこぼれ、学校荒廃、社会の変化→「現代社会」が誕生して40年

「現代社会」の果たした役割と挫折（共通一次やセンター試験に振り回された歴史）を踏まえ、1989年社会科再編以降の「公民科」の変容について考察したい。

1978年「誰が現代社会を教える？」→科目あって教科なし、学問領域を超えた合科、かつ1年生必修→職員室は大混乱が生じた

社会的事象は相互に関連しあう→現代社会を自らの身を置いて考える→見方・考え方に立脚する「政経」や「倫理」とは目標が異なる。キーワード…現代の社会に関する驚きと余韻 にねらいがあった。

「現代社会」は1学年に唯一の必修科目として、総合的な学び、学び方の学び、「問い」を立てて課題解決的な学習が進められた。

1999年 2単位へと改定

試験科目としては注目されたかもしれないが、安易な試験科目として位置付け

「軽くて」「浅くて」「印象（教科書）の薄い」科目として扱われなかったか。

→テスト（共通テスト・センター試験）に翻弄された

「公共」を成功させるために

「現代社会」と同じようなことが起こらないように、「現代社会」の成否を今一度検証する必要がある  
社会参加が一層求められる時代、唯一の必修科目としての「公共」をどうとらえ、「公民」を育てることを本質的に問い直すことが重要である。スライドにて「現代社会」と「公共」の共通点・相違点と目指す方向性について提言された。

（記録者 北海学園札幌高校 須田樹）